

開催概要（実施日、参加人数）

第1回 10/22（水）8人 第2回 10/28（火）10人
 第3回 10/29（水）8人 第4回 11/13（木）6人
 第5回 11/19（水）29人

計 61名

テーマ：次期将来計画の策定に向けて

地域の暮らし・子育て環境

- 子育て世代が「瀬戸を選ぶ」まちに
- 子どもの自己肯定感向上
- 居場所、遊び場づくり
 - ・共働き家庭やひとり親家庭の子どもたちが孤立しないための居場所づくり
 - ・子どもが安心して遊べる場所が少ない
 - ・多世代が集まることができる「メイン」となる公園が欲しい
 - ・子育て世代が気軽に交流できるコミュニティスペースの設置
 - ・公民館を活用した居場所づくり
 - ・市民プールの改修
- 子育て支援サービス
 - ・子育て支援センター等の利用時間が短い
 - ・ファミリーサポートは助け合いのシステムとして良い制度である
 - ・ここほっとルーム、保育園、学童どもこも人手不足
 - ・現在仕事をしていない保育士や看護師の活用、マッチングの仕組みづくり
 - ・放課後学級と学童のすみわけを明確にしてほしい
 - ・学童の利用料が近隣市と比べて高い
 - ・保育園の待機児童が多い
 - ・入所判定にあたり多胎児の加点配分を見直してほしい
 - ・経済的支援
 - インフルエンザ予防接種助成
 - オムツ・ミルク代補助
 - 給食費無償化 ※但し、給食の質が下がらないことが大切
 - 一時保育やベビーシッター代補助など
- コミュニティの希薄化
 - ・学校だけでなく地域全体で子どもを見守る文化の醸成
 - ・地域コミュニティ強化が地域の安全強化に繋がる
 - ・市民がまちづくりに参加する機会を増やす
 - ・行政で自治会の魅力や意義を発信してほしい
 - ・民生委員のなり手がいないので制度を見直してほしい
 - ・100周年を市民がまちづくりに参加するきっかけに

地域資源・生活環境

- 地域資源(瀬戸焼、岩屋堂、海上の森など)の活用
 - ・子ども向け自然体験プログラム
 - ・瀬戸焼の伝統を学ぶワークショップ
- 商業・観光
 - ・大型商業施設はないがアクセスの良さが強み
 - ・岩屋堂など観光施設に授乳室を整備してほしい
- 公共交通の改善
 - ・交通が不便
 - ・駅ロータリーで自家用車が使えず、子どもの送迎ができない

学校・教育

- 教育内容に関する意見
 - ・教員が多忙で子どもへの関わりが「作業」化している
 - ・教育現場の人材確保が必要
 - ・オールタブレットが国語力の低下に繋がっている
- 学校間格差
 - ・新しい学校と既設の学校で学校設備、図書室、遊具などに格差がある
 - ・市のどこに住んでいても同じような教育や設備を享受できるようにしてほしい
 - ・水野小学校の滑り台やうんていが使えない状態のまま放置されている
 - ・小規模校には小規模校の良さがある
- 部活動の活性化
 - ・子どもがやりたいスポーツに取り組める環境

(参考)

令和7年度市長と地域との懇談会 実績

実施期間 令和7年8月8日～令和7年11月26日

開催回数 全9回

参加者数 165人